

さぽせんナウ

【編集・発行】

さがみはら市民活動サポートセンター

〒252-0236 相模原市中央区富士見6-6-23 けやき会館3F

(TEL&FAX)042-755-5790

(E-MAIL) sagami.saposen@iris.ocn.ne.jp

(URL) http://www.sagamaru.org

さがみはら市民活動フェスタ2013

報告

強風もなんのその！ 心からの“おもてなし”に笑顔いっぱい

平成25年11月9日(土)、10日(日)の2日間に渡り、さがみはら市民活動フェスタ2013が盛大に行われた。

2日目のメイン会場となる淵野辺公園銀河アリーナ前では、朝から激しい風が吹き荒れ、テントやステージの設営も思うに任せず、安全面を最優先に考えての準備となった。

会場には、35を超える団体のブースが並び、活動の紹介や食バザーなど、

それぞれの持ち味を活かしたPRが行われた。今年も農業まつりや親子ふれあいの広場との同時開催とあって来場者は多く、会場内は活気と熱気に満ち溢れていた。

「ようこそ、いらっしやいませ！」強風も吹きとばすほどの心のこもった“おもてなし”に、訪れた市民の皆さんは大満足。団体の皆さん、本当にお疲れさまでした。

2面に続く ▶▶▶



若者も大活躍！



左から NPO法人相模原フットボールクラブのチアリーディング、さがみはら

今、NPOが おもしろい

心も体も輝ける
フラエクササイズを

NPO法人 ナブア アイカネ



笑顔が素敵な皆さん(左が井上さん)

小さな子どもたちからお年寄りまで、イキイキと華やかにフラダンスを踊る。「ナブア アイカネ」とは花の友だちという意味があり、仲間づくり、癒しの場として2000年に教室を開始。代表の井上邦子さんは、これまでの経験から健康の維持・増進、介護予防や子育て支援にフラが役立つことを常々実感。より公益的な活動に発展させたいと、今年7月、NPO法人格を取得した。

高齢者には「楽しく元気に」、子育て中のママたちには「同じ悩みを抱える者同士、体を動かし仲間と関わることで、心身共に豊かな生活を送ってほしい」。一方、若い頃からママと共にフラに親しむ子どもたちには「いろんな地域に目を向け、やがて世界につながる子どもに育ててほしい」と語る。ナブアアイカネの子どもたちは、学区や地域を越えた仲間づくりが自然に出来ているという。地域、そして家族さえも絆が希薄になっているといわれる昨今、フラは地域や家族の絆づくりにも大きく貢献しているよう



だ。

さらに、メンバーの中には稽古を重ねて教えられるまでに育った人もいる。それが、いずれ生きがいにも繋がるようにと講師の育成にも励む。現在、企業の社員の健康づくり等、講師が活躍できる場所・機会を求めている。

「ぼちぼち気長に、あくまでも自然体で、謙虚に」を身上とする井上さん。人々の心身の健康を強く願う井上さんの想いとこれまでの実績が、今後更なる展開を繰り広げてくれるに違いない。

さがみはら市民活動フェスタ2013

音楽とスライドで
福島の子どもの
「今」を紹介...

トークライブ 「私たちは、福島を忘れない！」



笑顔で語る裏には、復興への強い期待と子どもたちを守りたいというアツい想いがある。場内からは支援の声が上がった。

フェスタ初日(9日)はオープニングセレモニーの後、トークライブが行われた。

「緑がとても美しく感じたが、放射線量は高かった。」2年前の南相馬市訪問を振り返り、母ちゃんずの竹内さんは語る。民家では相模原の10倍の数値が検出されたが、わかっていても避難出来ない状況だったという。今回のスピーカーである母ちゃんずとNPO法人篠原の里では、相模原市内に福島の子を毎年招待し、原発事故で難しくなった野外での遊びを交えたキャンプを行っている。

市民団体と行政との橋渡しには相原二本松商店街の熊谷さんが協力、篠原・牧馬地区では自治会の協力のもと、福島子どもたちと夏祭りの共同開催が実現した。「自然と仲間が増えていった。福島のために何かしたいという気持ちは同じだった。」と、篠原の里の佐藤さん、自治会長の河内さんは言う。

トークライブでは、藤野在住の創作音楽家・ガインさんが映像にあわせ、メッセージソングを演奏。心に沁みる音楽だった。「風向きが違っていけば関東も無事ではなかった。」と語ったガインさんの言葉が忘れられない。

NPOセミナー

竹とんぼ教室リーダー育成実技講座

相模原どこ竹とんぼ会



“自分で考えてつくり、作ったもので工夫して遊ぶ面白さを伝承する”共通の趣味をもった仲間が集まり、世代を超えた交流を通して地域社会に貢献できた、と想いは熱い。

写真は、飛び入り参加してくれた未来の竹とんぼ教室のリーダー候補。子どもたちに臨時で実演中の様子。

NPOセミナー

I 大規模工事の失敗に学ぶ II マンション管理の在り方

NPO法人 匠リニューアル技術支援協会



「修繕」とは何なのか。時期はいつ頃で、費用はいくらが妥当？難しい言葉が並ぶ中、この工法で進めて大丈夫なのだろうか。そのような市民の悩みに応え、一級建築士やマンション管理士などの専門家の方々がスライドを使って、よくある事例、特に失敗から学ぶ実例を紹介。参加者は熱心に聞き入っていた。

NPOセミナー

子どもの声を聴くとは？

子ども健全育成ネットワーク



自己肯定感が低い、気持ちを上手く伝えられない子どもが増えている。セミナーでは「子どもの声を聴く」について議論され、子どもの権利条約を知らず、聞くトレーニングをしていない大人が指摘された。まずは安心と自己肯定感のある場所作りが必要と、活発な意見交換が繰り返された。

交流会



毎年、大賑わいの交流会。シェフに扮した山家副実行委員長の進行で、参加者全員の自己紹介が行われ、団体間の交流が深められた。当日のアトラクションは、全員参加のじゃんけん大会、熱戦が繰り返された。フェスタ2日目の準備に備え、楽しい歓談の時を惜しみつつ閉会となった。



じゃんけん大会の優勝者
えりかちゃんと
司会役の山家さん